

日本人として知っておきたい

あらゆる学問を先取りする仏教

今なぜ東洋か

～仏教をたたえる偉人たち～

アインシュタイン

もオススメ

これはすごい！！

あなたの身近に……

あなたがこれを知れば、天才の先を行くことでしょう。

急速に失われつつあるはるか日本文化の源流が、何百年もの歳月をかけ、天才達が少しずつ明らかにしてきたことの先をゆくのです。

この小冊子の内容を知れば、少なからず衝撃を受けると思えます。

お釈迦様の手のひらの上でうろうろしている孫悟空。それは私やあなたを含めた、全人類のことだったのかもしれない。

コラム お釈迦様 VS 孫悟空

神通力自在を自負する孫悟空が、

釈尊に、力だめしを申し入れる。快く承諾

されたので、早速孫悟空はキントウンを

呼び、全力あげて飛びに飛んだ。

“オレの力はこのようなもの”どうだと言わん

ばかりに釈尊の元へ戻ってきた孫悟空に

「あれがおまえの精一杯か」

「あれ以上はなんともありません」

「おまえが飛んでいるうちに、五つの

大きな山があつたろう」

「はい、確かに」

「真ん中の山の頂上に、

おまえは何を書いてきた」

「孫悟空この山の頂上を征服せり、

と記してきましたが、どうして存知で……」

驚いて尋ねる孫悟空に釈尊は、

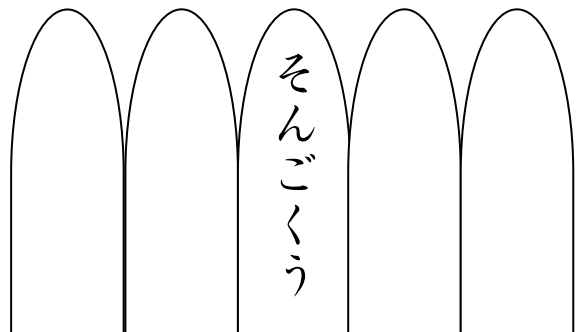
手のひらを開いて見せられる。

「お前は、この中指の先に書いている」

■ 目次

衝撃！西洋文明を先取りする東洋

- ① 物理学　　～ 東洋の世界観～
 - まさか物理学より広い世界観はないでしょ？
- ② 心理学　　～ 東洋の人間観～
 - さすがに心理学より深い人間観はないでしょ？
- ③ ロボット工学
 - えっロボット工学も？
- ④ 哲学
 - 西洋の哲学者たちはどう思っているの？
- ⑤ 経営等　　～ 仏教の実践～
 - いくら何でもお金は儲からないでしょ。



第1章

衝撃！西洋文明を先取りする東洋

かつて天才と呼ばれた人たちが、口をそろえて
ほめたたえる5つのポイントが次のページから
明らかに！



①東洋の世界観

世界はどうなっているのか？物理学

「まさか物理学より広い世界観はないでしょ？」とあなたは思っていないませんか？天才的な物理学者たちは、驚くべきことを発見しています。

●二千年前に物理学を先取り

二十世紀の爆発的な科学の進歩によって、ミクロの世界から大宇宙まで、物理学は急速に自然のしくみを解き明かしました。

その現代物理学の柱が2本あります。

■相対論



まず一つめは、時間と空間の関係を解明し、現在はカーナビなどに使われている、『相対論』です。光に近い速度では、時間がゆっくり進み、空間はゆがんでしまうという想像を絶する理論です。

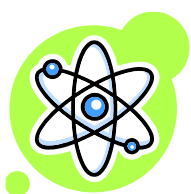
それをたった一人でつくりあげた天才、アインシュタインが、何と、物理的な考えを究極に突きつめていくと、仏教に説かれる概念と、酷似したものがあると言っているのです。

さらに、次のようにも言っています。

アインシュタイン (Albert Einstein 1879～1955)

現代科学に欠けているものを埋め合わせてくれるものがあるとするれば、それは仏教です。

■量子論



もう一つは、ミクロの世界を解き明かし、パソコンや携帯電話、半導体などに使われ、現代生活になくしてはならない『量子論』です。その内容は、「すべての物質は波であり、粒子である」という、これまた想像を絶するものでした。

ところが、量子論をつくった代表的な三人、
ボーアと、ハイゼンベルク、シュレーディンガーも、
東洋思想を学んでいます。

量子論の父、ノーベル賞物理学者

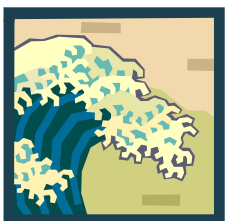
ニールス・ボーア (Niels Bohr 1885～1962)

原子物理学論との類似性を認識するためには、われわれはブツダや老子といった思索家がかつて直面した認識上の問題にたち帰り、大いなる存在のドラマのなかで、観客でもあり演技者でもある我々の位置を調和あるものとするように努めねばならない。

波動方程式によって

ミクロの世界を

波として説明した



シュレーディンガー (Schrodinger 1887～

1961) は著書の中で、波動方程式が、東洋の哲学の諸原理を記述していると語り、次の言葉も有名です。

西洋科学へは東洋思想の輸血を必要としている。

ミクロの世界を、粒子として説明した、

ドイツのノーベル賞物理学者

ハイゼンベルク (Werner Karl Heisenberg 1901

～1976) は、日本のすごさの原因を次のように考えています。

過去数十年の間に、日本の物理学者たちが物理学の発展に対して大きな貢献をしてきたのは、東洋の哲学的伝統と、「量子力学」が、根本的に似ているからなのかもしれません。

その代表、中間子論により日本初のノーベル賞を受賞した**湯川秀樹** (ゆかわひでき 1907～1981) は仏教から多くを学んでいます。

素粒子の研究に、ギリシャ思想は全く役に立たないが、仏教には多くを教えられた。

世界初の原爆を開発した責任者、語学の天才

オッペンハイマー (Oppenheimer, 1904～1967)
は語学に堪能で、仏教も学んでいました。

原子物理学の発見によって示された人間の理解力は必ずしもこれまで知られていなかったわけではない。また、べつだん新しいというわけでもない。我々の文化にも先例があり、仏教やヒンズー教では中心的な位置を占めていた。原子物理学は、いにしえの智慧の正しさを例証し、強調し、純化する。

「ブーツストラップ (靴ひも) 理論」により、素粒子「クオーク」を用いず、最新の実験結果を説明したカリフォルニア大学物理学科長

ジェフリー・チュー (Geoffrey Chew 1924～)
は、仏典の説く宇宙モデルと、自分の理論が同じ概念であると知り、愕然としたと言います。

1969年のことです。当時、「東洋哲学」の勉強をしていた高校生の息子が、大乘仏教について私に話してくれたときの驚き、悔しさはいまでも鮮明です。私は、仏教とはおそろしく非科学的な感じの概念と思っていましたから、私の理論との結びつきにひどく狼狽しました。それから、ずいぶん時間はかかりましたが、当初の狼狽や当惑は、やがて、**畏怖 (いふ) の念に変わっていきました。**

その他、微分積分学の**ライプニッツ**もどうやら仏教を学んでおり、一つの電子軌道に3つ以上の電子が入れない、「パウリの排他律」で有名な**パウリ**や、コンピューターを開発した天才数学者**ノイマン**も、量子物理学の究極の真理の中に、多く共通した仏教の哲学があることを発見していました。



●究極を先取りしたくありませんか？

また、素粒子の世界だけではありません、1980年代後半に生まれた『複雑系』の研究をし、シュレーディンガーの主著の日本語訳でも知られる

中村量空（なかむらりょうくう 1948～2001）は

私が仏教の縁起に関心をもったのは、複雑な世界の実態を説く縁起（※因縁果の道理）の世界観が、現代の複雑なシステムの理解に強いインパクトを与えるだろうと思ったからである。

人や物の結びつきを説くこの世界観に立てば、何らかのパーस्पекティブ（見通し）が得られるにちがいない。そこから現代科学の探求する複雑なシステムを見れば、どんなイメージがわいてくるだろうか。縁起のアイデアを現代科学に生かそうという試みは、むしろ新鮮な刺激をサイエンスに与えてくれるような気がする。

と述べています。

物理学だけではありません。もともと数学はインドが強く、ゼロもインドで発見されたのですが、

数学者の中にも、『二平方の定理』の名付け親で、当時の重鎮だった東大の

末綱恕一（すえつなじよいち 1898～1970）

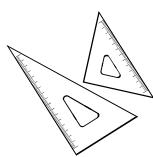
は仏教を取り入れた数学論を展開しています。

科学技術の進歩をよく方向づけることのできるのは仏教ばかりであろうと、私は絶大の期待をかけている。

キリスト教にはいくつかのドグマ（宗教上の教義）があつて、到底今日の科学と相容れないところがあります。仏教は科学を包容することができずであります。この貴重な仏教を、我々が滅亡させてはならないのであります。

生化学者では、日本生化学会会頭

水原舜爾（みずはらしゅんじ 1915～）氏。



仏教は、現代科学にちつとも矛盾しないばかりか、これから科学が進みゆく究極のところを先取りした感があります。

逆に、宗教学から科学を眺めると、東大宗教学教授、

岸本英夫（きしもと ひでお 1903～1964）は

世界に数ある宗教の中でも、仏教ほど、近代的な科学思想と手をたずさえて、摩擦の少ないものはまれであろう。

と考えています。

では、これらの学者達は、仏教の何を評価しているのでしょうか。それこそ、

この後二章で紹介する、
仏教の根幹であり、すべての
の仏典を一貫して流れる

『因果の道理』です。

● 釈迦の手のひらでうろろする孫悟空

最新の物理学でさえ、2600年前のお釈迦様に勝てないのか、次のように言う専門家もあります。

現代の日本における最高の理論宇宙物理学者

池内了（いけうちさとる 1944年～）氏は

様々な発見をしてきた物理学だが、物理学者は未だに仏の掌をうろろしている存在でしかないのである。

東大理学部物理学科卒のサイエンスライター

竹内薫（たけうちかおる、1960年～）氏は、

最先端の宇宙論も、キント雲で世界の果てをめざしてもお釈迦様の手のひらから外へは抜け出せない孫悟空の物語と同じように、**仏教的な世界観に通じて**しまうのだから仕方がないかもしれない。

『アタマにしみこむ現代物理』

②東洋の人間観1

「私は誰？」 本当の私。〈心理学〉

「さすがに心理学より深い人間観はないでしょ？」
と思っていませんか？心理学こそ、仏教には遠く及びません。

●心理学をはるかに先取り

「人間と生まれて一生の間に、どうしても出会わねばならぬ人が、一人いる。それは自分自身だ」と言われるように「自分探し」といえば、どんな年代でもいつも誰かが問題にしています。

今日、心理学関係の、神経科学、行動科学、認知科学のような、色々な分野の考え方を総動員すると、「人は自分で思っているほど、自分の心をわかってはいない」という結論が出てきます。

「これが自分の心だ」と思っている心は、「意識」と呼ばれるもので、その下に、私を動かしている

「無意識」とよばれる心が発見されているのです。

ですが「無意識」は、名前の通り、意識できない心ですから、西洋で学問的に論じられるようになったのは、フロイトが1900年に『夢判断』を出版してからです。

ところが仏教では、心を八つに分け、意識や

無意識といわれるもののもっと奥にある「阿頼耶識」

(あらやしき) が本心だとされています。

東大の比較思想学の権威**中村元**(なかむらはじめ

1912～1999)も、次のように言っています。

心理学者の**ユング**(1875～1961)が到達した認識は、実は仏教やインド哲学では既に二千年以上前から説かれていたものであったということがよく知られています。

実際、深層心理学という新たな学問体系を開いた

ユング (Carl Gustav Jung, 1875～1961) 自身、

著書に中国仏教について次のように記述しています。

私の患者には、一人の中国人もいなかったのですが、彼らの心的発展を研究して得たものは、何千年来東洋の最もすぐれた精神の持ち主たちが苦勞して切り開いた教えと実によく対応していました。

によれば、今日の脳科学によっても、人の心は、この世の物質（脳の化学反応など）によって決定されるのではないことが明らかにありつつあり、

仏教哲学では、人の選択は物理的世界の何ものによっても決定されない。これが真理だ。

『戦争と平和』で有名なロシアの文豪

トルストイ (Толстой, 1828~1910) は、

仏説譬喻經の『人間の真相』の物語を知り、あまりに自分の心をズバリ言い当てていることに、次のようにショックを受けています。

二千年以上も前に、心が世界を生み出すと教えた仏教が強いインパクトを与えています。

日本の心理学の第一人者、**河合隼雄**（かわい はやお、1928~2007）も次のように言います。

東洋の寓話を読んで、大きな衝撃を受けた。これ以上、人間の姿を赤裸々に表した話はない。単なる作り話ではなく、誰でも納得のゆく真実だ。

仏教はふつういうところの宗教ではない。それは言ってみれば、『知恵』なのである。そういうことは、これまでもよく言われてきた。

また、今日の強迫性障害治療の世界的権威、

ジェフリー・M・シュウオーツ (Jeffrey M.

Schwartz) の『心が脳を変える脳科学と心の力』



③ 東洋の人間観2

えっ？人工知能にまで？！ロボット工学！

物理学と心理学の両方に関連し、人工知能やロボット工学でも、仏典の、深く精密な心理分析が活躍しています。

● ロボット工学でも息をのむ活躍

ロボットが人間に近づく程、人の心を論理的に学ぶ必要に迫られてきました。その際、なんと仏典を研究している学者も一人や二人ではありません。

ロボットコンテストの開催を最初に提唱した東京工業大学名誉教授**森政弘**（もりまさひろ、1927～）氏は次のように驚いています。

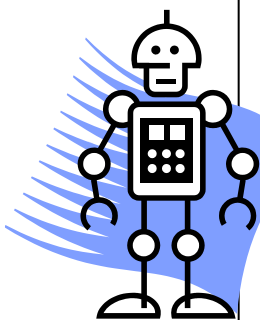
唯識仏教では八識（八つの心）に基づいて心理の詳細巧妙な解析を展開しており、その精緻さには驚くべきものがある。

人工知能の開発者、「人工知能の父」と言われる、マサチューセッツ工科大学教授

マービン・ミンスキー (Marvin Minsky 1927～) は

人工知能の開発には、当然、人間の心の構造の研究が大切になる。

ところが、現在の心理学は、十分に教えていない。そこで、心を専門とする宗教の中に、人間の心の構造を解明した宗教はないかと調べてみた。結果、キリスト教もマホメット教も、ほとんど心のしくみを教えていない。ところが、仏典には詳しく説かれていた。釈尊は実に優れた心理学者だ。コンピューター開発に、**仏典が比類なきテキストになる。**



ソニーでロボット犬アイボや二足歩行ロボットキュリオをつくった**土井利忠**（どいと）としただ 1942〜）氏は、次のように述べています。

従来は、宗教と科学というと、両極端にあり、対立するもの、そして相容れないものと考えられてきた。たしかに、「ニュートン力学」のレベルの科学は、宗教とは相容れない。

そして、一般の人が心の中に持っている「科学」という概念は、実はほとんどの場合「ニュートン力学」のレベルにとどまっている。

だから、宗教と科学が対立して見えるのだ。

二〇世紀に入ってから、科学は大きな変容を遂げた。アインシュタインの「一般相対性理論」や、素粒子の物理学である「量子力学」など、

従来の「ニュートン力学」の概念を大幅に塗り替える理論が確立したからだ。とくに「量子力学」は、少し深く読むと宗教的な概念と決して矛盾しないような解釈が可能になってくる。

慶應義塾大学理工学部機械工学科 ロボティクスの**前野隆司**（まえの）たかし、1962〜）氏は文明全般の流れについて次のように実感しています。

実存主義は近代哲学よりも釈迦に少し近づいた、といえるかもしれない。

もともと私は科学技術に携わってきたので、考え方の基本は西洋流の論理であった。しかし、心や意識について考えれば考えるほど東洋流のやり方を取り入れることの重要性を痛感せざるを得なかった。歴史は、東洋の時代から、西洋の時代へ、そして地球を一周して東洋の時代へという、大きな流れだと実感するようになった。



④東洋の哲理

哲学者はどう思っているの？ 〈哲学〉

「仏教より西洋哲学の方がすぐれている」と思っていますか？特に西洋の有名な哲学者たちに聞いてみましょう。

●ハイデッガーも絶句

西洋哲学で、存在と時間は切り離せないと考えられるようになったのは、二十世紀最大の哲学者の一人、ハイデッガー（Martin



Heidegger 1889-1976) の頃からです。でも、仏教では常識。

ハイデッガーは、仏教書『正法眼蔵』で一番有名な「有時（うじ）の巻」を知り、驚いてしばらく絶句したと伝えられています。

なぜかというところ、「有時」とは、「有（存在）は時間なり」ということだからです。一方、ハイデッガーの主著の題名は、今は『存在と時間』と訳されます

が、『有と時』というところです。

仏教の存在論、時間論は、西洋哲学を二千年先取りしていたのです。

●驚異の言語学も東洋では常識

ソシュール(Saussure, 1857-1913)は言語学を研究し、言葉と物事の結びつきについて解明し、当時の西洋人に、大きな衝撃を与え、考え方の大転換を引き起こしました。ただ、その内容は仏教では二千年前から常識でした。

実存主義の代表者の一人、

カール・ヤスパース (Karl Theodor Jaspers 1883~1969) は、著書、大哲学者たちに仏陀とナールジュナを取り扱い、次のように述べています。

仏教の賢者は、もはや水に湿ることのない鴨(かも)のように 世間をつらぬいて進み行く。

仏教の哲理「空」については、社会学者であり、評論家の**小室直樹**（こむろなおき 1932～）氏は、次のように言っています。

仏教の「空」は、人類が到達した
最深、最高の哲理であろう。

このように、多くの人たちがほめたたえる東洋思想を、ぜひ一度、学んでみて欲しいと、西洋の哲学者たちからも次のようにオススメです。

仏教を人生哲学の基礎の一つにすえ、

近代の西洋に仏教を紹介した

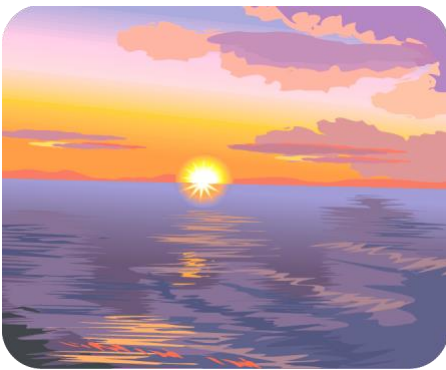
アルツール・シヨーペンハウエル

(Arthur Schopenhauer 1788～1860)は、**「空」**、

私は他のすべてのものより**仏教に優位を認めずには**いられない。私は一介の案内者にすぎない。
人生の答えは、各自が古典や東洋の宗教を
ひもといて見つけてほしい。

世界一やさしい哲学書・ベストセラー『ソフィーの世界』をあらわしたノルウェーの
ヨースタイン・ゴルデル (Jostein Gaarde 1952～) 氏も、日本人に対して、次のように述べています。

大切なのは疑問をもつことです。『ソフィーの世界』は読者がそれぞれ大切なものを見つけてるための本です。いわば哲学への入り口にすぎません。
しかし、この本には、西洋哲学のことしか書いてありません。日本の若い人たちには**仏教や東洋の哲学を学んでほしい**と思います。



⑤すぐれた実践

いくら何でもお金は儲からないでしょ。〜経営〜

仏教といえば、お金に淡泊で、貧しくとも清らかなイメージを持つてはいませんか？

それでは、お金持ちの皆さんに聞いてみましょう。

仏教は、高度な哲学を含んでいますが、日常生活と離れない、とても実践的な教えなので、普段の人間関係でも、すぐれたコミュニケーション能力を発揮します。

例えばビジネス書なら、ステイブ・コヴィー (Stephen Covey 1932〜) 氏の『七つの習慣』は、全世界史上最高の大ベストセラーとなりました。

そのキモである第六の習慣『相乗効果を発揮する』は、人と人との団結によって、人々に内在する大きな力を奇跡的に引き出すことだそうですが、これは、他のすべての習慣の目的であり、人生において最も崇高な活動と評価しています。ところがコヴィーは、

『これを仏教では中道と呼ぶ』と言い、実は他の習慣にも、東洋的アプローチがとられています。

特に第四から第六の習慣は、仏教では、相手を幸せにするままが自分が幸せになる

「自利利他」ということです。

『七つの習慣』

私的的成功

第一の習慣 主体性を発揮する

第二の習慣 目的をもって始める

第三の習慣 重要事項を優先する

公的成功

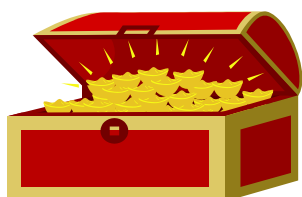
第四の習慣 WinWin を考える

第五の習慣 理解してから理解される

第六の習慣 相乗効果を発揮する

再生再生

第七の習慣 刃を研ぐ



だから相手の立場に立つこと『自利利他』を心がけて、巨万の富を築いている人が沢山あります。

有名な高島屋は、『自利利他』を心がけています。

高島屋が発展した鍵「自利利他」は、昔から変わらぬ当店の家風であります。(高島屋二代目)

京セラの創始者、**稲盛和夫**（いなもりかずお

1932～）氏などは、次のように言っています。

私は、いつも簡単な仏教の本をもって歩き、飛行機のなかであろうと、どこであろうと、閑があれば読んでいます。そのくらい繰り返し読んでいても、すぐに忘れてしまい、なかなか実行できません。それでも、そうでなければならぬと思ひ続けること、毎日心がけることが大切だと私は思っています。(六度万行は)普通の人間が生きるための知恵として、ぜひ取り入れるべきだと私は信じます。

ちなみに『六度万行』とは、仏教に説かれる「善」を次の6つにまとめられたものを言われます。

布施	—	親切
持戒	—	言行一致
忍辱	—	忍耐
精進	—	努力
禅定	—	反省
智慧	—	修養

また、百年ほど前の自己啓発の古典、

ジエームズ・アレンの「原因と結果の法則」に、

仏教は、明らかに影響を与えていると言われていますが、アメリカで800万部の大ベストセラーになった「小さいことにくよくよするな」を書いた臨床セラピスト・心理学者の

リチャード・カールソン(Richard Carlson 1961～2006)も、仏教を学び、取り入れています。

仏教の教えでは、苦難は人の成長と心の平和に欠かせない要素だとみなされている。



また、米国PR会社日本法人社長田中慎一

(たなか しんいち 1935〜)氏は、コミュニケーションについて、次のように語っています。

欧米人の頭の中には、そういった禅とか仏教的な思想は入っていないから、もっと科学的に考えてしまおうですね。どちらかというところ。相手と一緒にになれるわけがないじゃないかと。

あとは無限大の発想でいわゆる無限に近づいていくと説明するのがギリギリのところでしょうね。でも、東洋的にはよくあるでしょう。禅の修行である山と一体になれとか。

『ラストサムライ』なんか向こうで流行るのも、そういう東洋思想的な不可思議さにひかれ始めている証拠なんでしょう。

コミュニケーションというのは、相手の立場に立てればこれほど強いものはないんです。この辺は圧倒的に東洋思想のほうが強いですね。案外、コミュニケーションの分野では日本が世界をリードしている

ってもおかしくないと思は思っているんですよ。

● 仏教経済や「共生」

このように個人的な成功哲学はもちろん、社会全体としても、たとえばイギリスの有名な経済学者シュローマツハ(Ernst FriedrichSchumacher 1911-1977)は、世界的ベストセラー『スモールイズビューティフル』で、再生不可能な資源に立脚するのは愚かであり、再生可能な資源によって小さな範囲で自己循環する『仏教経済』を提唱しています。

正しい経済成長の道は、唯物主義者の無頓着と伝統主義者の沈滞の間の中道、つまり八正道の『正しい生活』を見出すこと。

六本木プリンスホテル(東京)、パシフィック・タワー(パリ)、ゴッホ美術館 新館(オランダ)クアラルンプール新国際空港(マレーシア)などを作った世界的建築家の黒川紀章(くろかわ きしろう、1934-2007)は、仏教を元に『共生』という言葉を

作りました。

私が1960年につくった新しい概念である「共生の思想」の原点には、大学で学んだ「唯識思想」があります。

仏教思想として4世紀にまとめられたもので、「二元論」と違って、善と悪を超え、すべてを一つのものとして扱うことが感動的でした。

明治以降の日本は合理的精神に基づく二元論、つまり精神と肉体、理性と感性、都市と自然、科学と芸術、個と全体と対比させる考え方のもとに発展してきました。

確かに日本が近代化を進めるなかで、科学技術や経済の発展には必要な思想でした。ですが私にはそれだけでいいのかという思いがありました。すなわち、対立、矛盾、あるいは厳しい競争関係にある二者、または複数の相手がそれでもなお、相手を互いに必要とする関係がある。それは単純な二元論ではなく東洋的な哲学です。

互いに相携えることで新しい時代を切り開くことが

できると考えたのです。

では仏教には、結局、一体何が教えられているのでしょうか。それこそ、誰もがもつとも知りたいことなのです。



著者プロフィール

長南瑞生

千葉県出身。[日本仏教アソシエーション \(株\)](#) 代表取締役。学際領域といわれる学問と学問の境界領域を研究する東大教養学部で、量子統計力学を学ぶ。趣味は読書と音楽鑑賞。

近代の西洋式の仏教研究と、日本の伝統的な仏教学を両方んだところ、生きる意味を教えられた伝統仏教のほうがはるかにすばらしく、内容も高度であることを発見。伝統を打ち破り、西洋式の分かりやすさで本当の生きる意味をすべての人に伝えようと奮戦中。

その一環として5万部のベストセラー『[生きる意味109](#)』や、KADOKAWA（角川書店）からは、『[不安が消えるたったひとつの方法](#)』等の著作がある。

Copyright (c) Mizuki Osanami. All rights reserved.

※内容の一部または全部の無断複写・転載はご遠慮下さい。

衝撃！西洋文明を先取りする東洋。

- まさか物理学より広い世界観はないでしょ？
⇒①物理学 ～東洋の世界観～
- さすがに心理学より深い人間観はないでしょ？
⇒②心理学 ～東洋の人間観～
- えっロボット工学も？
⇒③ロボット工学
- 西洋の哲学者たちはどう思っているの？
⇒④哲学
- いくら何でもお金は儲からないでしょ。
⇒⑤経営等 ～仏教の実践～

人類最大の難問に答えが！？

○物理学より広い世界観

○心理学より深い人間観

○経営学より儲かる人間関係